時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり　時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あり（時事新報…

時事新報

明治三十年四月廿四日　土曜日
舊暦丁酉三月廿三日（壬子）
日出 午前四時五十九分　日入 午後六時二十分
月出 午前零時五十一分　月入 午前十一時七分
滿潮 午前…十四分
西暦千八百九十七年　年始より百十四日　年末まで二百五十一日

廣告

毎土曜日發行

團團珍聞
東京銀座四丁目　珍聞館
壹部金五錢

社告（廣告料改正）

時事新報第一紙面　廣告料一行金二十五錢

時事新報紙面の廣告が世上の新聞紙に勝れて効能あるは今更申すまでもなけれども殊に其第一紙面は他の紙面に倍して効能著しきより從來同紙面に掲載方依賴の向多く其都度取捨選擇に苦しむこと尠からず就ては自今第一紙面に限り廣告料一行廿五錢に改正候間左樣御承知被成下度候也

布哇へ社員特派

移民拒絕事件の眞相觀察の爲め今回我時事新報社は社員西師意氏を軍艦浪速に便乘せしめて布哇國に特派したり談判の模樣は勿論、同國の事情は最も迅速なる方法を以て報道す可し

社說

次は外債募集ある可し

日淸戰爭我國の大勝利に歸して少なからざる償金を收め得たるの一事より社會の企業熱は遽に沸騰して種々の計畫指を屈するに遑あらず同時に既成會社の株券も首を擡げて戰爭中に比ずれば凡そ二十圓方の騰貴を見たるもの珍らしからず非常の景氣にして一方には彼の干渉事件の結末に付き臥薪嘗膽など悲憤慷慨の色なきに非ざりしかども一般の歡聲に壓せられて社會の全面には只春光の麗なるを見るのみ企業の前途萬々歲と思ひたるは一時の夢にして本來その企業熱は戰勝に取上せたる一時の人氣に促されて實際には未だ手にも入らざる償金を目的の計畫なれば事の進むに隨て忽ち金融の逼迫を告げ株金の拂込にハタと當惑するものもあれば高直の株券を背負ひ込みて進退に窮するものあり企業投機世間一般の情態にして風光一變次第に不景氣の聲を耳にしたる折柄、東京にては或る商人の失敗より大阪にては小銀行閉店の事などもありて經濟社會の狼狽一方ならず頻りに聲を高ふして恐慌來を叫ぶに至りしもこそ憐れむ可き次第なれ是に於てか其社會の輩は百計々盡きて策の出る所を知らず取り敢へず政府に泣付き自儘勝手の慾を爲して曰く實業の衰頽は即ち國家の衰亡なり政府は全力を擧て救濟の手段を講ぜざる可らず須らく日本銀行の利子を引下ぐ可し須らく資金融通の道を開く可し云々とて必死に運動したるは實際の事實なり其運動果して當局者を動かし得たるや否やは我輩の知らざる所なれども政府に於ては其頃より偶然にも幣制改革の說を生じて頗る熱心の樣子を示したり抑も此改革は非常の大事件にして自から利害の論も多々なれども差向き之を時の政略上より見れば政府の目的は外國に公債賣出の道を便にして外資の輸入を謀り以て歲入の不足を補はんとするもの〻如し然るに外資輸入の一事は恰も世間の實業家又は株屋など稱する金融社會の運動者輩の希望に投合して其輩に於ては渡りに舟の感のみか恰も救世主の手に接したる心地して之を歡迎したる其一方に國會議員の如きも多くは無學の輩なれば後の利害をも考へず目前の人氣に乘じて手もなく通過せしめたるのみ誠に無造作の始末なりと云ふ可し右の次第にして日本は立派に金貨國と爲りて政府も運動者も共に目的を達したれども其目的は果して實際に行はる可きや否や今日に於て其結果を云々するは太早計に似たれども倫敦市場の樣子を見れば我公債の景氣は依然として幣制改革の爲めに毫も影響を感ぜざる者の如し尤も改革は單に決したるのみにして未だ實行せざることなれば他日の成行如何は容易に知る可らずと雖も此一事の爲めに外國の資本が續々入來る可きや否やは先づ以て疑問に屬せざるを得ず而して內の有樣を見れば外國貿易は矢張り輸入超過の一方にして更らに振はず加ふるに米國にては關稅增加の沙汰さへあり又昨今地方の報知に麥作菜種の如きは或は不作に非ずやとの掛念ありと云ふ其等の事は姑く擱き兎に角に金貨論の爲めに一時回復の色を呈したる株式市場の如きも此頃來の塲面は甚だ面白からざる樣子にして今後の成行甚だ掛念なれば外資輸入を目的として一時安心を催したる例の運動者輩は大に失望しながらいよいよ窮するに至れば又も例の手段に出でゝ政府に泣付くこととなる可し否な其輩の中には早く既に外債募集の說を唱へて多少運動中のものあるよし當局者は之に就て如何なる考を爲しつゝあるや本來を云へば斯る一種の輩の泣言は政府に於て耳を傾く可きものに非ず斷然排斥するこそ至當なれども爰に一種の事情は金貨案の目的實際に齟齬して外資の輸入なきに於ては第一の困難は政府の財政にして歲入の不足を補ふの道に窮することなれば果して其場合と爲れば官民雙方の窮情恰も相投合して遂に外債募集の窮手段に出づるやも知る可らず外債募集も事宜に由ては差支なし我輩の一概に反對せざる所なれども抑も政府が幣制改革の工風を案じたるは實際財政の始末に窮しながら斷然租稅增加の決斷を斷ずるを得ず左ればとて外債の募集は或る一部の攻擊を免かる可らずとて表面に公債賣出の名を假りて實際には外債の實を行はんとしたる窮餘の窮策に外ならざるのみ然るに其窮策も果して目的を達せずして更らに窮々策に出づることもあらんには政府が單に一時の人氣を待んとするが爲めに國家永遠の大利害を弄びたるの責は〔…〕して免かる可らず今後の成行果して如何、當局の處置は國民の注目す可き所なり

○上海特報（四月十六日）

特派員　松尾久男

●●●●●●●●●厦門日本居留地の選定

我政府は此程厦門領事上野專一氏に訓令し愈々同地の官吏と其居留地區を商議せしむる筈にて右に付總理衙門は其旨を總督に通じ總督は之を厦門の道臺に訓令し道臺は知府張文川氏が久しく厦門にあり能く土地の狀況に通ずるの故を以て右の談判委員となしたれば張氏は既に本月三日を以て官船飛捷號に乘込み同地に向ひたりと云へば愈々其談判を開始するも遠からざるべし而して其地區は彼にありては虎頭山の猪屎窟沙坡尾の兩地方を以て其地域と爲さんとし我は海澄縣所轄の敖浪嶼後深嶼海嶼を以て居留地に選定し今後製造工業の大に起るに至りて之を利用せんとするに在るが如し厦門は人口十五萬を有し居留人も亦四五百人を下らず其地我臺灣と相去る二晝夜の航程に過ぎざるのみならず左右に福州香港を控へたれば今後我商人の南淸に勢力を張らんとするもの臺灣と相俟ちて一日も忽諸に付すべからざるの所況んや前に金門列嶼を擁し兵略上亦最も樞要の地なるに於てをや余は我領事が百年の長計を考へ以て充分の功果を收めんことを望むものなり

●●●●●淸國の外債談

北京最近報なりとて當地新聞報の傳ふる所に依れば淸國政府は總稅務司サー、ロバート、ハート氏を介して英國の一組合より一億兩の外債を募集せんことを申込みつゝありと云ふ而して其半は之を日本に支拂ひ他は軍備の擴張及び其他の費途に充つるものにして其擔保として江蘇省に於ける一切の厘金を供給し右厘金局の管理は其債主たる外人の手に委することとし既に其相談も略ぼ纏まりたるが如しと傳ふ果して然るや否や暫く記して之を後日に徵せん

●●●●●通商銀行の一頓挫

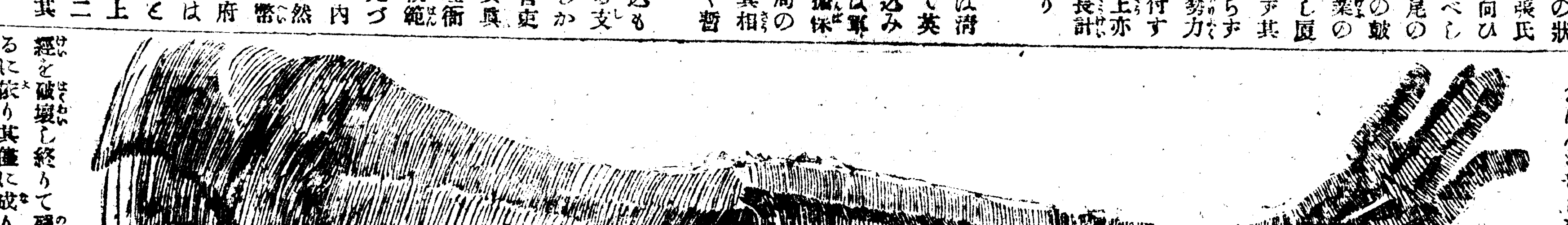
淸國通商銀行は其後株金の申込も至て景氣宜しく既に夫々役員の任選も終り北京なる支店設置の場所も東交民巷なる舊高麗館と定まり久しからぬ內愈々開業の運びに至りつゝあるが又も一部官吏の反對を受け今や專ら其商議中なりと云ふ而して其異相なるものを聞くに同銀行目論見書は戶部及び總理衙門に於ても反對者多く殊に其第九條即ち此銀行は模範を泰西の銀行に執り每六箇月每に決算報告を爲し先づ年八分に相當する利益を株主に配當し更に其殘餘の內幾分を取締役及び顧問外人に給與し積立金を控除し然る後其殘餘の八分は之を株主に配當し二分は銀行紙幣發行貨幣鑄造其他の保護に對する報償として之を政府に納むることとし而して積立金五百萬兩に達したる曉は尙ほ積立金を爲すや否や取締役會の決議に依るものとす云々の條項には特に反對するもの〻如く政府は以上の特權を此銀行に付與するを以て其報償は純利益の二分の配當を過少なりとし之を五分に爲さんとするは其重なる意見なりと聞けり

○東京駐劄の伯剌西爾公使

南米伯剌西爾共和國との修好通商航海條約は本年二月二十日公布したるを以て政府は遠からず辨理公使に伯剌西爾駐劄を命ずる筈なるが同國にては露西亞に駐劄せしめ居る公使某氏を東京駐劄全權公使に任ずることに確定せりと云ふ

○X線

X線を利用して…
へられたる所なる…
イランド市に住む…
〻右手なるが十…
其腕は不格好に…
を仕はんとせし…



經を破壞し終りて…
るに從り其傷に成人…
線に照して其右手を…
の三通りに成り居…
し來れり果して之を…
みならず又大に其手…
にて兩親が請求の…
と